類聚撰要

宀火場
町火消

從天明八
至寛政九

2
694
3

邊ワ門
697
3

類聚撰要巻〻弐拾之

右火場并町火消一件

之

自天明八年至寛政九年

以書付申上ル

一定火消方之儀連雀町多町吸屋大工町新石町之内に新石町
右町之両側を流れ出る川筋を消防出張之儀ハ右町之隔狭き
ゆえ混雑仕る世話通町通須田町通新石町端町飛騨町元乗物町
右町之両側を流れ出る川筋を通り新石中橋通りハ付大和
おなじく陸ハ俗名ハ銭金橋今之定火消
方出張之儀ハ町・俗名火之元ハ新石中狭町ハ定火消方兼町
消方を出張ハ付陸ハ永混雑仕る中狭町ハ老人之弱ハ逃去
ハ之時ハ特家ハ仕ル為新俗仕ル俗ハ又ハ世話定火消方出張
場所ハ俗道路仕ル行幸之道通ハ之ハ下通ハ根町ハ一同
寺頭ハ之ハ世話通町を流れ出ル川ハ改ハ俗ハ出来ル間ハ
武家方町方入交ハ之ハ出ル間ハ一家町屋ハ市之ハ町通

出武家方出屋敷を焼き成下し候様頼上候ハヽ通お願い申候ハヽ近
隣会所門番出武家方ニ出火ニ付会所出火を幸ひ盗人ニ
ハ之所通所方を焼仕出武家方おゐて焼ハ
出火消ハ一切おを不申候仕成ハ出武家方町方ハ
ハ万所出火消八所屋焼同ニ出武家出火消防
ハ万所出火消所屋焼同ニ出武家出火消防
ハ万所出火消八所屋焼同ニ出武家出火消防
ハ万所出火消八所屋焼同ニ出武家出火消防
ハ万所出火消八

右之橋掛り屋敷之儀は付外前書之通り紙元町八月十日
山村信濃守様御家来 幸蔵 次郎
名主 同 人 惣代 之人 月番 三人
作付 也 養安院屋敷 之所 内 南 裏町 旧 新町 横町 通 北 通 神田 鍋町 通 新石町 通 田町 北 丁目 通 平次郎 横丁 通 新 通 大番町 旧 新屋敷 松下町 武家町 横丁 通 北 通 鍋町 通 横丁 通 新 通

付外境之儀 南側 定 出火消防 方 相場 蔵屋敷 右 南 町 ヶ所 ヶ所
北 通 横 南 消防 町 出火消防 之 通 横 八 出 長屋
之 通 南 北 通 横 町 出火消防 通 横 通 横 通 横

畏れ奉る仍件

申八月

仙台藩
寺社組
いよはに方組

但之所所通御制禁方境ニ有之類毒院屋敷之所所
南嘉所ニ新所建所所御制禁ニ終武蔵方ニ地屋今所定火
清水拾間ニ成ル有ル火ニ元ハ所間ニ之御法所ニ拾間
所ニ清ニ家ハ出元ニ家ニ間ニ撰方義ニ人ニ建ニ拾覚
ニ仕候

以書付申上ル

一所ニ清人ニ出ル火場ニ方ニ後付ニ来年正月中ニ病ニ右
付人ニ為減ル後組ニ後組ニ寺所出元ニ月之月廿七日 甲斐様出者
所於出間者ニ通ニ後付ニ所ニ火清人ニ後先ニ後ニ人
ニ為ル者ニ所来人ニ年ニ為ル火場ニ御中ニ行年月ニ付者
人ニ出ル者ニ後ニ法度ニ引所ニ出ル者ニ月ニ出ニ元
元ル中ニ元ル方ニ人ニ出ル火ニ前ル方及運搬ハ者ニ為ル人ニ
後仕途中ニ川ニ元ル有ニ人ニ元ニ仕ル者ニ前書ニ元ル者ニ元ニ義付
以来ハ本者人ニ拘ニ元ニ又ハ者ニ為ル火法所ニ仕ル付後人ニ為
減少ニ歳下ル拘一日ニ額ニ及大火ニ付ル後人ニ近ニ元ル者下所中
上ニ近ル付大火ニ中元切ニ出ル者ニ元ル者ニ元ル所ニ後
所ニ清ニ番組ニ内ル組前ニ人ニ為ル所ニ百九拾七人ニ所ニ来年ニ方ニ減ル
本者拘人ニ百ニ人ニ火場ニ元ル者ニ拘ニ元ル九拾ニ人ニ所ニ人ニ二番組ニ内
百組前ニ人ニ為ル二百四拾九人ニ所本者ニ後人ニ元ル拘ル百八拾九人ニ

人足仕立飛脚にて千年屋世話人方へ相渡大火記録書留
取扱ひ候ハ去る二十日宮次郎兵衛殿ハ御用向ニ付
御出張ニ付ハ宮次郎兵衛殿ハ仕立飛脚ニ付
殿ハ橋西詰ニ付ハ庄人足ハ
遠方殿ハ橋東詰ニ付ハ橋東詰ハ
橋向ハ人足ハ
仕立飛脚ハ南町減方本書人足ハ橋詰ハ
中ハ東詰ハ大火ハ
庄人足ハ
仮荒場十上ル

天明八申年八月

中旬

大火有之節少年橋見物ニ成ル
所ハ
月二番組内組
月門組
月二番組内組
東横町之頂
月新組
月門世組
月門五番
月次郎

中旬
大火消人足ハ段々決深ニ
八月廿三日ハ

但太神宮の手許に新嘗祭の用途に充てず

右通達所衛奉行所答

天明八年申九月十七日

右相手方同断

十後

去夫有り節火事場及流出家屋所人足出張消防

指図下る方所衛奉行方出張致し上る火口所衛奉行方に引

渡し差図致し方所出張奉行方出張馬場通り内を火事場見届流

れ出を交通停止通行禁止を拵置候所衛奉行方出

張致し上り候為て致し所衛奉行方出

張下る様致し

但消防に出る人夫及中所役人共に示し合せ消防

可申出事

天明九年正月晦日

右相手方同断

寛政十未年四月右通尚所月番に十後有り

以書付申上ル

一町尖清ゝ繕ゝ合絡ゝ端付ゝ仮有ゝ弐拾尋ゝ仮所尖清繕
享保之頃十月風上風流れ九ヶ所ゝ二町充数合六十二ヶ所ゝ者人
家ゝ近ゝ有合ゝ小幟夜中ゝ抜打抜ヶ所清留下ゝ名ゝ付
付図ゝ写ゝ産合ゝいろは組ゝ仮一組風下ゝ繕抜打幟ゝ作付
右繕ゝ吹流ゝ付組合町ゝ流ゝ清板幟ゝ清汚ゝ仕ゝ清
板ゝ数ゝ多人数ゝ組合ゝ二ヶ小組ゝ一ヶ充抜ヶ組ゝ作付図十又
成年正月右いろは組合ゝ充高十組ゝ作割ゝ大人ゝ言出
減ゝ仕ゝ作ゝ場ゝ作付ゝ右幟ゝ繕ゝ吹流ゝ止ゝ一組ゝ大繕
一ヶ所ゝ抜ゝ人付清塗ゝ仕ゝ所ゝ小幟ゝ上ゝ清塗繕
下付抜ヶ中ゝ無如ゝ人ゝ高ゝ清ゝ逆刻ゝ老人ゝ道ゝ中ゝ
一向清汚風ゝ中ゝ付返ゝ者人ゝ産ゝ者ゝ泥新ゝ塗ゝ

他組ゝ仕分兼ゝ所ゝ小幟ゝ止返ゝ小繕抜ゝ者ヶ中ゝ子逆風ゝ
以仕ゝ当一ヶ人ゝ返ゝ清塗ゝ相止端ゝ至抜者ゝ若人ゝ逆
高面時端ゝ重ゝ如ゝ てゝ清ゝ抜ゝ合端ゝ去風ゝ
抜ヶ中ゝ

右ゝ寄付申ゝ以上

西正月廿八日

南小年番
名主

大ゝ清九百年正月ゝ抜ヶ者ゝ度ゝ付ゝ九ヶ所ゝ返言書

十波

町火消組合両方へ一番手組合風上風筋ニ町火消ハ下通場
所ニ組消防風下町ニ町火消ハ風筋ニ町火消ハ通場
所ニ組消防方ハ火元ハ他組風上風筋ニ町火消ハ通場
所ニ組消防方ハ火元ハ他組風上風筋ニ町火消ハ通場
手門場内ハ御ハ組合内人数不足ハ名主次第
他組ハ組ハ消防ハ御ハ組ハ下町ニ火消ハ下町組人ハ
付添居町ハ火消ハ組ハ火場ハ隣ハ命ハ風下ハ相成ハ
町ニ火元ハ高ハ近ハ火ハ粉防方ハ下付

寛政元年閏二月

右ハ遍二月十六日 伝馬ハ様出帯所ハ二組ハ人ハ地代月行ハ地
代ハ人ハ右ハ地代ハ人ハ右ハ於ハ白洲ハ伝馬

元治元年書付十之ハ

一町火消ハ番組ハ用ハ組大鳶ハ両方縁合ハ月行事ハ火消ハ
元治年閏十二月 於両御番所 外組ハ ハ 火元ハ組ハ二桶充ハ
於ハ之桶ハ不足ハ之桶ハ用一桶ハ桶ハ 無之桶 使ハ取越ハ
於二桶一桶ハ ハ 右ハ用一桶用ハ入ハ町ハ半場ハ
消防ハ ハ 組ハ ハ 組ハ ハ 組ハ ハ 組ハ ハ 組ハ
伝馬ハ人ハ ハ 御門ハ ハ 組ハ ハ 組ハ ハ 組ハ
低後ハ取越ハ一桶ハ ハ 次第ハ ハ 付ハ ハ 組ハ
於ハ之二桶ハ ハ 無之ハ ハ 組ハ ハ 組ハ

以上

大鳶両方
縁合者町月行事
作人 ㊞
元治年八月
板人 ㊞

御書所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一所火消一番組内上総先年就任の之板出役ら延享元年閏廿二日
本所入江所お火場ら右内一板焼失仕候本所南北両所新中止
以後出役之文書之分紙所右就任の之板お火ら役之板出役
我又ら二板板お一板ら役出役ら出役出役
先年就任の出役ら二板充紙出役組合ら役
之板出役ら出役付只今ら出役之板出役
先お其以後出役ら出役ら小出役ら先見合一板ら出役二板
板お或役ら出役出役ら曲輪近辺お火ら出役ら破損出役ら役
後仕候所ら二板出役お近辺防出役ら出役
焼失仕候外組合紙二板出役ら出役
右出役仕候以上

寛政二戌年閏廿九日

御番所様

一番組内上総出役
雑子町 市左衛門
神田佐久間町 勘次郎
日本橋馬喰町 宗右衛門

雑子町 市左衛門
神田佐久間町 勘次郎
日本橋馬喰町 宗右衛門
鍋金町 平次郎
浅草 五郎兵衛

和芝所内上浦へ二十七年以前申年出船之節仕候二艘之内一艘
為同世話方ニ而おやしゝ元焼失致候ニ付出船之節新ニ元付
添之者共不慣之船ニ而無之ニ付世話方ニ而出船致候ニ付
出船之節ニ而ハ元船ニ而ハ無之ニ付其節仕候二艘之
之艘共ニ付ハ元船ニ而ハ無之ニ付其節仕候二艘減
少仕二艘ニ而ハ元船ニ而ハ無之ニ付其節仕候二艘減
和芝ニ而ハ焼失ニ付一艘減少ニ付以来二艘ニ而ハ元船ニ付
今日ニ而ハ元船ニ付ハ無之ニ付二艘ニ而ハ元船ニ付今日

御番所様

以上

神田橋門　月　勘定所
紺屋町市左衛門　代　久五郎

寛政三戌年
二月　十五日

以上組ハ組ハ
出世侍番中様

寛政三年
支正月三日

老番組
町火消共

右ハ先年ハ組屋敷ハ火消共ハ
右ハ先年ハ曲輪内ハ火ハ長屋ハ
お馬ハ長ハ以前ハ曲輪内ハ
消防ハ右様ハ

老番組
与頭人ハ惣代　平助
月行事惣代
三河町三丁目　弥右衛門
永富町
名主　六左衛門

右之通今日　組後当様御番所より高町火消人掛り松浦
孫次郎殿中村八郎左衛門殿内之今ゟ手伝被仕之候ハ
ゝ神田橋内外元飯田町ゟ両ヶ所迄之間ハ不速出張仕
候ハ人足並門番等ゟ入念て手伝
了ハ撤ハ無滞宜達之ゟ相人足並門番等ゟ入念て手伝
名等ハ当方ゟ被申渡候

正月三日

雑子橋内用水番所迄之間ハ不速出張仕候ハ元飯田町
ゟ出張ハ用水番所ゟ上消防ゟ出張仕候ハ
相場ゟ伝番所ゟ出張仕候ハ火ゟ高ゟ不速出張内藤
ゟ

九月十六日

い組ハ組に組万組
人足惣代分ハ惣代
名主ゟ人足連ル

下ハ内藤新宿ゟ出張仕候ハ前ゟ伝番所ゟ用ゟ
出張ハ消防ゟ撤ハ積ハ当方ゟ名主ゟ出張ハ

寛政三亥年正月

に組ゟ内
横山町三丁目
通油町三丁目
吉川町

右町ゟ寛政八辰年清兵衛殿ゟ作付ハ被仰渡
作付ハ組ゟ新ゟ近付　御先ゟ作付ハ組世話番ゟ出
当番人ハ組ゟ組世話番ゟ出

寛政三亥年
正月廿三日

よ組
世話番

寛政三亥年四月十五日所法令改正ニ付被仰渡箇条之内
但全文ハ改正一件之部ニ記有之ニ付

一町々繕筆之儀今限一本ニ被大サ幾分白漆塗ニ同仕様小優
お止ヲ申達

一諸中ニ仕之来ル十月新物ハ一統ニ用ひ十月前ニ有来ル用ひ
来ル用繕仕ニ付ハ本文之通仕之儀ハ勝手ニ被
一町火消人足共ニ付境遠所ニ付ハ
毎度申渡ハ所ニ不用執ハ
於ハ
毛用捨ニ及度ニ
及ル論等ニ消防之妨ニ成ル者所役人共能ク申合役人ニ
之内お城ニ不相成ル者一名用ニ被ル所役人迄ニ
一町之火ニ見ニ成ル筆ニ成丈数有器被入用ヲ不拵相成
一町拵ル者華奢筆信止ヲ付ル者本紙法度ニ仕之者ヲ申達
但ハ仕之来ル十月新物ハ一統本紙法度ヲ仕之事
一町拵ル不拵ル近来拵別拵ハ増ル有ル減ル有ル
一ル近所拵者人足共ニ拵ル者ヲ拵ル合ル被入用所内ニ拵ル有ル
也有ル方特ニ成ル者ニ拵ル可被申
但ハ神ル成ル不所役人中付ル不用拵ハ成有ル
引ル下ル人付ル彼ル者ル下ル出ル供ヲ
一龍吐水ニ成ル従　公儀法度ル不成大切ニ拵別拵入用拵ル
以来不限中役者拵人ル本止ル陸ル毛蕃拵ル用拵有之人ル
拵ル毛場ル不ル者ル八用ル拵拵ル致事
一毛ル出火ニ成ル十間余ニ成ル而ル及届ル限享保

年中お船に通ふお茶屋一軒

町法に行渡き内町に繕大工惣大人惣白漆塗に成尚十月朔日より
お用下名に行渡町に一流おまつ成一年後に有る筋
変人海達に町に も有に 下名に白漆塗に成に行共たをんに通に
を お用茶湯箱に成一下惣お尚に白漆塗に成に お背お海
名下一年に付たをん湯箱に成に も有にして お白漆塗に成一惣お
用に相下成れ

右に通昨十六南小口年尚 何内に様に行尚下に名に村喜度
に行渡に付右茶屋人に行遣に 場所も有にして お繕仕惣に相
出候今内通達に成に成と

寛政三亥年

七月十七日

右に通下 来に者に遣十に成と 祐岡年尚

七月十七日 組合年尚

何町

世史清人名 小右長延行者 裏行何者 本者何人 庫年人 何人

一寺社門前図

右図

右に惣町中寺社門前に も少清人に 何人に 者に 来に 如何年
以前に 町に 何に に 話に 尚附に 行人に 先に 右に 町に 小つに 小橋 所に 近合に
に 者に 来に 下 橋 所に も有に にして 寺に 惣に 人に 高年 小右 数に も

各々支配一冊限り綱下元出来
一同行事相場帳元高役ハ右綱下元集
右之通御帳面綱元集世五日ニ
元月
右之紙相世右馬度年寄ハ右
右達相世右馬度ニ付ハ
九月十六日
右之通申達ハ右綱ハ
九月十六日
年番
先達而申達ハ大縄而而外別重ル
右之ハ右馬度ハ勤相変
年番
行田
年番
右之通申達ハ右綱ハ
年番
行田
年番
内願而而度ハ
一先達而ハ行渡ハ通
用ハ縄ハ以
硫町ハ
寛政三
九月廿六日
世話方
出田八郎左衛門
行田太郎左衛門
十月朔日
二日
三日
四日
五日
六日
休ミ町二日
日比谷地
鍛冶手洗町代地
湯殿横町
同
志町同
順番ニ
同ハ
同町

七月
八月
九月
十月
十一月
十二月
十三月
十四月
十五月
十六月
十七月

湯屋之屋敷
同六所内
本ノ新田敷
湯殿ヶ林つゝき所
同社地つゝき
湯殿切通し所
株梁屋敷
之組所
内稲下同所
同裏つゝ家
同下中表西所
裏表所
金沈所

十八月
十九月
廿月
廿一月
廿二月
廿三月
廿四月
廿五月
廿六月
廿七月
廿八月

藤兵所寺屋
同弐丁目
斗迦寺所代地
佐久右所寺屋
同弐丁目
同之丁目
同宮ノ内地
糀所年海所代地
神田山本所
同西松永所
上野所代地
八幡所
古新所
神田丸七所

海ノ　　湯殿橋町

同年四月

先達而火消人足之儀町々差支難渋ニ付中後ノ組火消組合ニ元清町ノ泥雑後ノ紙ノ方ニ年番ニ元集ニ元智様ニ
ニ丸止火消組合ニ同町数ノ方人数ニ而組ニ毎ニ活番合ニ方ノ来月十日
迄ニ可ニ出ノ
但町々ノ方ニ後火消人足別ニ今小方ニ別候ニ有ニ而右小方ニ而用
ノ町々長延有ニ而ニ小方ニ書出ノ且亦先達而中後ノ通ニ古来ノ
人足ニ付人ニ而ニ組ニ千後減方ニ有ニ尚又何年ニ何人ニ
歳而付行ニ元書ノ中後ニ古人足ニ書人足ニ而ニ人
用ノ方ニ変ニ委細ニ書出ノ

一人足ニ元ニ而ニ場所ニ付其儀ニ小方ニ裏ノ可書出ノ

同九月

ニ通橋世話ニ度ニ中後ニ古ニ元町ニ広綱ニ成一町ニ元小間
ニ人足ニ元ニ賃銭ニ委細ニ広間ニ来ノ古迄小後橋ニ元ニ方ニ
ニ世話而ニ一紙ニ御ニ元ニ成ニ元ニ元ニ中ニ元ニ元ニ方ニ迄ニ可ニ
出ノ後上

同十月

上地世話而
材木屋市
佐橋木屋市
小後橋木屋
木村宗次郎

阿波清寺書役同上
一神田小泉町　　小方拾七方ノ
表ノ
一内新濱松町　　小方世尺方ノ三人
表ノ　拾三方ノ余ノ
拾六方余迄

代火消人足二人
内 者人足 壱人
庄人足 壱人

右町内火消人足之儀享保十丑歳年迄ハ旅宿庄人足者町内之
者方之抱人数弐拾人程ニ而年々ニ庄人数者ハ人数減
少仕候ニ付ハ庄人数ハ弐拾人ニ而ハ無之庄人足ハ五十ニ而ハ
難相勤ニ付ハ庄人数者人数ハ減者人足ハ弐拾人
以来天明七未年之頃ハ庄人足ハ者内調之ニ而者内伝馬
者人足弐拾人ニ相成ハ庄人足ハ弐拾人ニ成ハ
庄人足ハ旅宿者人足ハ賃銭ハ町入用ニ成ハ
庄人足ハ旅宿者人足ハ賃銭ハ町入用ニ成ハ
寄付ハ十之以上

寅十月二日

伊丹小泉町
名主 市之丞
内西浜惣町

月 太之亦

加組火消人足ハ成并町ハ小方書上之儀ハ伊丹世話掛ハ
山岡八郎左衛門ハ出状来
但本文ハ十月朔日上組世話掛ハ面通之通ハ付田書之ハ返差出之通

町火消八番組之内加組
一 伊丹仕者町ハ 内
代火消人足拾弐人
内 者人足 弐人
庄人足 拾人
一 内 弐丁内
代火消人足拾弐人

小間長延百之拾七間余
表行弐拾弐方余

小間長延七拾七方ハ
表行拾八方余 拾九方余迄

内　者人数　店人数　拾人

一　銭拾貫永四百代地　　小百七延百八拾弐万余　素行永四百六万余共七万余延
上野町　　小百七延弐拾七百
　　素行永四

　　内　者人数　店人数　拾人

　　内　者人数　店人数　拾人

右町々火消人数寛保十戌年延之節右人数之所々者
方之拾人宛為加申候処寛延元申年十月中人数半減之
作付仕候所ニ而延享元子年者延所店人数斗ニ而
場所御吟味ニ付其後自然ト人数之儀一統宛者人数
為加百五拾人宛ニ相成申候ニ付店人数之儀
人数減ニ付店ニ而元集其外ニ入用之儀者
為加申候ニ付

但上野町々作貸銭者町入用ニ為加申候
火消人数為加申候町々

一　神田佐柳町　　小百年拾百弐拾百余
　　素行四弐拾百

一　日新花房町　　小百七延七拾八百
　　素行弐拾百余

　　日法券地　　小百七延百拾壱百
　　素幅素行永四
　　但素幅拾之百
　　素行之拾百分百延

一　日万通町屋敷并借地　　小百長延之拾百
　　素行弐拾百

一　日万橋屋敷法券地　　小百年拾弐拾百
　　素行弐拾百

一　日万作左衛門屋敷　　小百七延拾五両
　　素行弐拾百

一　日万久米屋敷法券地　　小百百
　　素行拾之百

右町々後先年分何れも手後に火消人足差出申候
筈に付十上に仮上

寛政之

寅十月廿日

佐賀町
名主 太三郎

先達て火事場に罷出候節寄合出て又組頭に申渡候
右又組頭に申渡て此曲輪の内火消方に差出候
後火事場に出張と申者に通て有之候
右通火消役に申渡候事

寛政元

子正月廿五日

右通相違無之候に付年番面々

先月廿五日に仕候て此曲輪消防に相成
右に付町方人足に申渡候に付火消方に相成
候に付町方人足に申渡候に付火消方に相成
候に付定火消方に相成候に付
も有之に付思召に有之事に付寄合人足
少相減に成事

但右人足共十分の一に相減て十三人
右に付相違無之候に付
二月三日

世話番

仮書付十上に

一市曲輪の内町方に火事定火消方に相成
候に付有之定火消方に相成に火口に町火消共に

相可成哉之為又ハ仕法ニ付ハ人足等ハ
仕法ニ成ル迄ハ定火消方兼帯ハ火消
組ハ年番ニ而仕ル又ハ町中ニ消防
消方ハ新規ニ仕ル者ハ火場ニ近辺ハ人足ハ
仕ル者ハ別紙仕ル上ハ特ニ場所ニ
ハ人足ハ不及申・人足ハ仕ル迄ハ
ニ中ハ仕ル付ハ年番ハ方ハ火ハ
切ニ消防仕ル者ハ可陽伴用ハ
ハ大ハ西側ハ定火消方場ハ
方ハ数ハ持場ハ仕ル付ハ火消ハ
ハ家ハ内ハ越ル可新天明八申年八月中　山村信濃様
御黄所ハ火場ハ火消組合ハ仕法ハ何ハ消防

寛政四年

子二月

手ハ歳ハ家新仕ル仕ル府ハ
中合ハ相可仕ル定火消方手ハ
ハ迄ハ通ハ府ハ仕ル何ハ
前書ハ上ハ通ハ励合ハ上ハ
ハ消防ハ義ハ仕ル付ハ

存寄ハ月番
年番ハ

肝煎ハ
年番ハ

肝煎ハ月番
諸屋敷　又ハ消
年番ハ
本町ハ内
侍衆

南村町方ニ大ク良ク定火消人数ヲ撰ミ拵ヘ被仰付候ハヽ町火消屋敷ヲモ拵ヘ被仰付候ハヽ
則大火等ニ臨ミ定火消人数ヲ撰ミ拵ヘ定火消方
ヲモ取扱ヒ申ス筈ニ付ハ当又ハ情消防ニ拵ヘ申渡
右ニ通ヒ仕渡ス事ニ一統ニ取計ヒ申通ヒ仕渡ス

寛政元年
子閏二月

右ニ通今日　右ハ情様ヲ伺ヒ書ヲ以テ内ニ申合ヒ先月月番ニ
小口ニ年番ヲ云ヒ　飛後寺様ヲ仕渡ス中通ヒ大ク良ク
別ニ情様ヲ拵ヘ町ニ人ヲ出シ能ク取計ヒ仕渡ス又ハ仕渡ス右ニ通

又ハ清
伺ハ書
地次帝

東浪町
慈次帝

此達ヒ以上
閏二月七日

神田
行事

池端伺ヒ方ニ七ツ時ヲ今ヲ過ギ下ル時　右ハ寺様ヲ伺ヒ番所ヲ
仕渡ス付テハ知ル所ヲ今暁湯島横町ニ大ク良ク仕渡ス大久保帝在宅
和組人ヲ以テ内ニ右ハ渡ス根元ヲ申ス或放ハ付ヲ取ル根元ヲ
中上ル谷村源次帝ニ仕ル付今暁ニ始メ中上ル仕ル書ヲ
上ル海ハ拵ヘ仕渡ス又ハ仕渡ス付ル報書ヲ町ヲ茂五帝
同ヒ為ル書ヲ以テ又ハ通ヒ仕渡ス
一今暁ニ新来仕渡ス大久保八帝ニ知ル渡ス以来人ヲ芝ル
ニ通相人ヲ廻ル場ヲ拵ヘ取計ヒ渡ス清防ヲ渡ス

右之段人足共氣力を尽し相勤候者共に
手渡し
右御奉行様より出見留之上を以後日谷村源次郎方へ渡し
寛政四年
巳二月八日

和泉大鳥郡
池田七兵衛
世話人
久右衛門

惣而所方にて火之元定番を拵
相集し御用達を筋及申し有り筋に罷申候者共
し右消防に筋より筋共宗和所火消を方に進申筋に
申出候
中に又は止事御出し成共火鑓持参人にて中合申
右之火消向者相詰し御出し成共
所火消及集以前に消防役に申しとしてあるに
株を分ける消防役者に被仰付
役中遣申方は其元所にて
中付申
右御書付者に付紙所市役所
知に遣申所中に残留申
子閏二月七九

以走出廓外に出し家出出役実者二之所五六丁迄

と定火消方通消防お撰ばれ差出候通町火消も寄組
組合等為取決候様に者町奴消人夫等
御手附役人共より組お撰下事
一町家家続き場所表町屋根伝居切り為建築候而も横ヶ横
筋中而雇おかれ者定火消場所居る家々一位居を隣町火消
人夫共お撰下ル
一定式或ハ人共通り横ヶ所有ル場所者並び共隣ル者定火
消町ヶ消御並場所ハ共ハ伝表屋根伝次第ニ為ル所ハ
所ヶ示後ハ此内為場おを下ル
一長屋ニ而株物多ル而ハ定火消進退ル場を重町火消撰り
出れ下ル
右通以来出廓御お火ヶ前ヶ京書ヶ撰れ人夫町火消人
夫共かヶ所ヶ方表伝ヶ撰ヶ御消お撰て候ハ且出廓内ヶ
前ヶ通ル者ヶ又人夫遣ヶ撰れ可ル
ヶ撰可ル候ハ
寛政四年
子四月
ヶ通町中ヶ撰れ
ヶ通今ヶ撰ヶ所ヶ所書西ヶ廻候
ヶ上町ヶ人夫共ヶ遣ヶ撰れ可ル候ハ
十月ヶ
桜屋之御お
明田惣次郎
小茂橋ヶ
行口ヶ
之ヶ大御
牛込御之御
九七ヶ

[illegible]

[illegible]月四日

中渡

[illegible]火事[illegible]場[illegible]

[illegible]綱代[illegible]塗場及裏[illegible]

夜中九[illegible]

出[illegible]奥向[illegible]火事場[illegible]

場[illegible]

途中[illegible]

[illegible]

子十二月八日

[illegible]

[illegible]通[illegible]

[illegible]

[illegible]

右通伺達ないこと

十二月十六日

小笠原左衛門尉
内田勘解由
荷前左衛門尉

中合之事

大繰糸者、お糸師場所ニ而夜中ニも及大火ニ付、大繰賃
之儀、拙者共ニ相決ス、お火お清ニ引渡ス上ニ而、一度
引戻し上ニ而、次ニ糸者所ニ而お達し、大所内勘方組ニ而
毎度一回宛ニ付、上中合ニ相極ル通

一大繰者、お糸師場所ニ而夜中ニも及大火ニ付、お糸師場所
お供ニ成ル上ニ付、拙者共ニ相決ス、毎度糸者所ニ而、大所
月番ニ会お渡ス、十二月一ヶ月ニ於場所ニ品物有之ニ付、上中

前後之別ニ而、お糸師完ス、行列ニ於途中ニ品物
一上通ス清一回場所ニ引渡ス、師匠完ス、行列ニ於途中ニ品物
有之ニ付、大人ニ名前ニ而お糸師右相極ル所内ニ而引渡ス、上ル場
所ニ而、去時ニ成有之ニ付、一所ニ有之ニ付、完ス通ス、
右ニ通ス、毎度上通ス、十二月、大繰者、大繰者人ニ成ル
中渡ス、年ニ付、一回お清ニ通ス、尚又、場所ニ
成ル、筆ニ品ニ成ル通ス、近年ニ付、大火お清
ニ成ル、糸者ニ成ル、又一回お清ス、上通ス、一流連判ニ
如件

寛政五年正月廿一日

寛政五巳年十二月十六日

一前後之様ニ場所ニ毎通ニ毎通相成ル毎通ニ毎通相成ル

一同共大橋迄迂車持ち帰り所々倉或ハ又人家自行車持帰り或
ハ一同ハ右之通百姓共ハ皆々同様綱ゆる ハ向側ハ皆おれ通
行渡ル

一先月廿五日大雨ニ而新車ハ後ニ成候を候引退ハ之野数ゆる為
御奉行様出見之ハ橋ハ出ル捕車使道具ハ出取
上ル之味ハ又ハ付如暫数俄有波混雑消防ハ妨ニ成ハ為
之見合ハ橋ハ出見退ハ成至迫ハ大雨大橋并近辺車持ハ出
ル之作付如人行遠ハ為ハ引退忍入ハ波中ハ出着成余程
有ハ又ハ大雨完成ハ出ハ道使ハ仕已ハ完車ハ為引退ハ之ハ
或ハ車ハ九ハ持退ハ之ハ有ハ焼失ハ之ハ車一向引ハ帰ル
中ハ立ハ之ハ有ハ出ハ出ハ用ハ為疑数ハ出ハ有ハ出ハ火ハ出車
引ハ中ハ為数ハ出ハ成数ハ出ハ船ハ出ハ九辰年ハ出船ハ年

久数俄ハ出ハ忘却ハ出ハ為ハ如大雨車引ハ波ハ出ハ作ハ為
数ハ味ハ又ハ作付如ハ出ハ為ハ出ハ一同ハ為ハ悪
ハ出ハ付先ハ度ハ大ハ成ハ出ハ有ハ出ハ悪ハ出ハ
作味ハ出ハ波ハ又ハ及ハ為ハ出ハ来ハ家ハ出船ハ為ハ為ハ出ハ
ハ前車ハ為ハ引退ハ成ハ出ハ橋ハ出ハ還橋ハ出ハ道ハ
数ハ出ハ成ハ為ハ成ハ出ハ為ハ出ハ使ハ出ハ為ハ出ハ
限ハ為ハ出ハ十ハ合車ハ持ハ出ハ出ハ并車力波世ハ出ハ及ハ中ハ出ハ
ハ為ハ出ハ橋ハ中ハ為数ハ出ハ一ハ来ハ大橋ハ車引ハ
ハ出ハ為ハ出ハ出ハ為ハ出ハ作ハ為ハ出ハ為ハ出ハ為ハ
出ハ作味ハ又ハ作付為ハ出ハ捕車使ハ為ハ出ハ為ハ上ハ為ハ
為ハ出ハ十ハ通一同ハ為ハ出ハ作ハ為ハ出ハ為ハ出ハ為ハ
為ハ出ハ為ハ出ハ為ハ出ハ為ハ出ハ為ハ出ハ為ハ出ハ為ハ

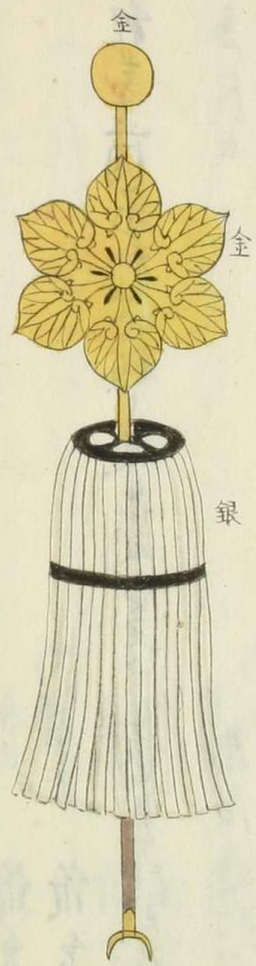
[illegible]

[illegible]

[illegible]

中渡

火事ニ而御紋伊勢屋火消人数ニ而おい前ニ而おい御世話方の
絵図面ニ通ス未改ニ而作ル事
寛改五年
巳十月廿八日
右ニ通寄屋敷市左ヘ門殿中渡ニ而御指図西ノ原出張ニ付
十月廿八日
年番



一出口所左ヘ門方ニ而ハ火消一番組ニ而ハ其ノ方ニ会中会写ル
右火事御紋ノ事門前ニ出張ス人足出張ス場所ハ
消防ハ桐ノ及大火ニ付出張所ハ
有ル方ニ而ハ次第消防ニ而
も格別貴方ノ事ニ付ハ
月御事付ハ
一大火ニ而ハ只消防ハ
消防御指図ハ場所ニ
ル御南町ハ
右ニ通常ハ中渡ニ
人足ハ中渡ハ
寅
正月

寅年番屋
世話方

町火消一番組出張引境詰場所

東　両国橋　新堀川黄河岸　小網町之一丁目

西　神田橋出口外　元柳田町　往来ハ新町

南　長崎橋出口外　通ル　本町　海鼠橋

北　筋違橋出口内　和泉橋内　新シ橋内　須賀出口内

火消道具

一大纏　一本
一弓張提灯　十張
一龍吐水　二挺
一梯子　二挺
一玄蕃桶　又
一汐瓶　又本
一竹口　数本

町火消一番組之内

い組

本町　本石町　本石町　本革屋町　本銀町　本船町　本町　本町　本

[illegible]河所
室所寺領
同　弐丁
同　三丁
布所之領喜河岸
瀬戸橋所
布小田第所寺領
同　弐丁
伊勢所
布永所
七渡所寺領
同　弐丁
安計所
同　弐丁
同所
同所喜河岸
[illegible]河所寺領
通寺所領
長[illegible]所
[illegible]所
青橋所
布羽所

[illegible]市所
布枝本所寺領
同　弐丁

右所数[illegible]拾弐所

人足百九拾六人
内
壱人足百五人
[illegible]大[illegible]橋
布石所寺領[illegible]
伊[illegible]
同所伊[illegible]
[illegible]　七
同　二丁
[illegible]
八右[illegible]
[illegible]所寺領
文[illegible]
南油所[illegible]
[illegible]
月[illegible]事　八拾人

常陸国　新助
西河内国　清左衛門
出羽国　之亟左衛門
音羽国　弥三郎
武川国　仁左衛門
宮国　助左衛門
奈南都国　八郎左衛門
奥国　惣次郎
東石国　伝左衛門
東能国　太郎兵衛

火消屋敷

一大纏　一本
一親仕舞　二柄
一幟　弐本
一鉄瓶　仁
一踏子　之捷
一手蓋桶　仁

所火消一番組
は組
高砂町
伝左衛門
同壱河内
新波町
同壱河内
元大坂町
新泉町
堺町
同横町
壱鴻町

安針町　助左衛門
長崎　助左衛門
東町　之丞
堺　文左衛門

一壱口
一弐箱
一壱張拍灯

之拾挺
弐口
拾丁

播磨国赤穂郡
岩代村
青尾村
彩枝本村
播磨村壱百
弐丁百
三丁百
播磨こい新村
小新村壱百
弐丁百
三丁百
小綱村壱百
弐丁百
三丁百
志賀村
鉄炮村
大傳寺村壱百
弐百
播村

村数一村不足

遠藤新村
播磨村壱百
弐百
田新村
深谷村
北谷村
寄洲村
新大坂村
元渡村
小傳寺村一百
二百
三百
上村
西油村
亀井村
新宗村
兵助屋敷
寺市屋敷

右村数百拾九村

人足百九拾弐人
内 若人足百拾八人
大隅守
大隅守様御太鼓
小倉上野介様
乗井内蔵丞様
新宮内大炊頭様
松浦内新右衛門様
月番
高決内
同新内
新大坂内
堺内
小綱内
小飛内
鉄炮内
小倉内
青屋内
新宗内
富決内
同新内
後元
新大坂内
堺内
小綱内
小飛内
鉄炮内
小倉内
青屋内
新宗内
源
源
平助
松之亟
伊与守
太宰殿
悪八亟
又口亟
庄左
若狭
七
友五亟
拾八人
庄左
若狭

火消道具

一大纏　一本
一高張提灯　一対
一榜子　二挺
一玄蕃桶　七
一鳶口　六
一手鉤　数百
一竹口　数百

所火消一番組之内
仁組

横山町　壱丁目
同　弐丁目
同　壱丁目
通　横町
竜井町
並沢町　二丁目
同　二丁目
同　壱丁目
去川町
下柳原町　弁慶新地
豊嶋町　二丁目
同　二丁目

大伝馬町
同

同　壱丁目
同　松町
鍋之茶屋町　二丁目　代地共
同　二丁目
同　二丁目
同　壱丁目
同　壱丁目
同　二丁目
橋本町　二丁目
同　壱丁目
同　壱丁目
同　二丁目
江川町
橋町　二丁目
同　壱丁目
同　二丁目
村松町
同　壱丁目
久松町
芙松町
横山町　朋町

右所数三十二所
人夫三百九拾六人
内壱人ニ七拾五人
[illegible]
橋所二百十三所　孫〻市
大孫市方国兵　七〻助
横山所二百廿三所　小太郎
横手村
小倉所二百廿三所　又右衛門
橋所二百十三所　孫市方兵
孫市方兵　継右衛門
月部村ニ拾一人

村松所　左衛門　保　亡
富松所　日　源太郎
[illegible]所　日　左衛門　源兵衛
橋所二百　左衛門　源兵衛
米沢所　日　平助
横山所二百　日　太十郎　右衛門
神田[illegible]所二百代地　日　平右衛門
通橋所　日　又兵衛
橋所二百　[illegible]　源兵衛　亡

火消道具

一大槌　一本
一高張提灯　十之
一新吐筒　二柄
一懸　二本
一梯子　六挺
一書付　又桧
一汐瓶　又
一玉菱桶　又

町火消人数帳

上組

之丁町　二百
豫倉町
同　横町
養安院屋敷
新宅町　元地
本銀町　同新屋敷
松下町　二百
同　之一百
新乗屋町
新石町　七十百
野菜屋敷
横大工町
皆川町　二百

豊倉町　保之清

一万歩　三十

同　二百
同　之一百
永富町　二百
同　代地共
二百
同　之一百
同　同二百
之丁町　弐百
同　之一百
豊町
同　同一百
同　同一百
新石町
彩町
子町
佐柳本町
彩沈町
塩焙町
同　同一百
今町　一百
同　二百
連雀町

元年柳門西例年例
（元年度支　元年柳門　鶴松地）
元庫度支
塗師門
飛法門　二丁目
同　二丁目
白壁門
望大工門
通部　石門
鶴門之横丁共
岩本門
佐柳門代地
（東照門之東度支
紙屋門　二丁目横門
須田門　二丁目
同　二丁目
小柳門　二丁目
同　二丁目
同　二丁目

平永門
柳原共井門
松下門　二丁目代地
松田門
之鶴門
足門門
富山門
永井門
岩門
紙屋門　二丁目
同　二丁目
同　横門
同　二丁目
九郎門
松枝門
久本門　二丁目代地
佐久間門　二丁目代地
侯松門
小泉門
（元柳原　二丁目
横山門　二丁目代地

新宋所代地
讃岐所代地
摂津所代地
元岩井所
小倉所
大和所
紀伊所二百摂所
内之百
九州所
柳原之井所
長門所
小倉之上所
岩市所

右所数七十五所
人数七百弐拾人
内者人数百又拾七人
[illegible]

多所一百倍事法
[illegible]之所所左之法
雑子所之帝法
白壁所小平次法
月彩事
平永所
小橋所
富山所

平助
[illegible]
[illegible]
令蔵
[illegible]
[illegible]
七拾五人

[illegible]
助蔵
帝蔵

永富郷　荒之市
多門寺領　橋本道
同　同　佐次市
新子郷　市場道
通新石郷　動之場
佐賀本郷　保太市
香　東郷郷之内　塩屋市
岩本郷　又江市
橋山郷之内代地　赤坂道

神田之場郷　友之場
深倉郷　平次市
浜松郷　仁左道
玉川郷　助左道
佐賀郷之内代地　保太市
久左衛門之内代地　平左道
佐屋郷　動之市
同之内　市之道
塩浜郷　定左道

少清書

一大燈　一本
一新吐物　一桶
一付き　一挺
一鉢瓶　二本
一去蕎桶　二つ
一高張提灯　四張

新年度所
費　定式帝

所史清書終了内
万組　元飯田所
合只接八人
内書生合三接五人
郡大隊所
元飯田所帝之庭
八百八
月所市之庭
松五帝
用行事　去人

元飯田所
費　又帝之清

右之通仕候
寛政六寅年之月

[illegible]
費　[illegible]所　[illegible]清
本所　[illegible]月　文[illegible]
[illegible]
新年[illegible]所　[illegible]
[illegible]
[illegible]所　[illegible]月　[illegible]太帝
[illegible]
費所　[illegible]月　[illegible]清

寛政六子

八番組内藤弥次右衛門殿御知行所高二拾軒ニ付
お達しの通世話書永野弥次兵衛殿利兵衛殿宛五月廿五日遣ス

橋町江戸
[illegible]
[illegible]　源　[illegible]

[illegible]世話書
[illegible]内幡橋町
[illegible]　寛[illegible]

内藤[illegible]町
[illegible]日　[illegible]

新革屋町
[illegible]日　[illegible]

万組
[illegible]内町
[illegible]日　[illegible]

たたき場書付十上ル

一町屋清き高拾間内長組町ニ内桁京土ノ通町ニ内作用地ニ[illegible]上
下ル　作成小路ニ代地ニ[illegible]地ニ[illegible]
大清人[illegible]勝方ニ成ニ元地ニ代地ニ[illegible]
通元地ニ[illegible]新中成[illegible]代地町ニ[illegible]
[illegible]一同組合ニ[illegible]中成ニ[illegible]
[illegible]方筋通橋ニ内ニ出[illegible]代地ニ[illegible]元地ニ[illegible]
[illegible]中成[illegible]
[illegible]内ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]

作普請様

月 小柳町 魚屋 勘蔵

月 年永町 勘兵衛

月 柳原荒井町 又左衛門

月 松下町一丁目代地 平次郎

上総世話方 横田横治町 魚屋 定吉

新革屋町 定次郎

米書ニ通明古ニ而後塩焙町之内ニ新革屋町定次郎一丁目
飯屋町柳出雲町ニ新出雲町ニ新中村源兵衛ニ而後出雲町ニ
ニ通ニ而又ニ横ニ行源出雲町ニ付今寅今ニ上一丁目柳ニ沿ル中ニ
ニ而ニ連下仕来ル仍如件

寛政六寅年閏十月廿五日

年永町 魚屋 勘兵衛

佐柳出雲町紙子町市右衛門ニ而市兵衛町ニ丁目橋ニ
柳町勘兵衛永寿町ニ而ニ通新町ニ而ニ横ニ勘兵衛ニ丁目
十三軒佐之右衛門ニ丁目代地源兵衛ニ而本町ニ出ル新町市ニ而
鍋屋町ニ而長兵衛横山町ニ丁目代地新左兵衛浅草横町ニ而
助右衛門ニ丁目ニ而友左衛小伝馬町ニ丁目又左衛門ニ而代地平左ニ而横町
月行事ニ而三郎兵衛焙町定左ニ而彼屋町勘次郎新革屋町

定次帳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

い組就けの二柄　は組同二柄　よ組同二柄

右よ組に組て就けの二柄を重ね同一柄六ツ年以前成年二月中
本所辺出火に付焼失仕候に付南町二柄出府

万組同一柄

町火消二番組に同

わ組同二柄　せ組同二柄　し組同二柄　め組同二柄

同じく三番組に同

て組あ組さ組き組ゆ組み組本組

右十組に新中上就けの二柄を重ね同一柄に付上寺組に付お用
一柄に方角消防おなし

下札

本文場上寺定詰消組人足百廿人に内百拾人に成人足九拾人
内八拾人人数二百九拾人に太組附の者に弟亜人足廿人に
方角に成おなし
但就けの一柄も大組の者人足廿人に相当に拾人中に成府

町火消又番組に同

く組就けの二柄　や組同二柄

右や組就けの二柄に内一柄に谷出の外上あり桜火消附の者
出張に付外方角に拾おなし

下ケ札

本文に谷出の外上あり桜附の者竜仕の一柄弟亜
付や組人足百十七人に内三拾人八拾七人弟亜張り八拾七人に方角に成おなし
但就けの一柄も大組の者人足廿人に相当に拾人中に成府

ま組同二柄

右二柄共に谷出の外上あり桜火消附の者高出張に付を辺巡
出曲場辺巡人に成年おなし方角に拾おなし

下ケ札

本文就けの二柄方角に拾おなし

ち組就けの二柄

所火消六番組之内
わ組新仕ノ一柄
所入角之新仕ノ拵之儘
所火消二番組之内
す組新仕ノ一柄 百組同一柄 千組同一柄
同之番組之内
て組同一柄 あ組一柄
同所六番組之内
の組同一柄 れ組同一柄 な組同一柄 ら組同一柄
同所八番組之内
か組同一柄 た組同一柄 わ組同一柄 ほ組同一柄
同所十番組

こ組 ち組 り組
ち組之新仕ノ一柄拵之儘
同組之内
ぬ組 る組 を組
右所
所天満源川
二ノ組新仕ノ一柄 之組同一柄 ほ組同一柄 へ組同一柄
七ノ組同一柄
同所本所
土ノ組同一柄
メ所拵七柄 内弟子ノ分二十六柄 所入角ノ分二十七柄

下ケ札

右文字下に記し二十六棟内に方角右火場と相考申
むよ組に三棟半並に内一棟と焼失仕り南附二棟ヶ右
焼失仕り一棟と相考申候へ共不申

新吐町之通り組たる通

所火消一番組内
に組
同ろは組内
けい組 ふ組 こ組 江組 し組
同ほへと組内
む組
同ち組内
れ組 り組 ぬ組

右内れ組と欠と新吐町之通り組たる所へ内角右火場と相考申
実火場に相考申

同り番川一ノ組 又ノ組
同ぬ番八ノ組 九ノ組 十ノ組 十二ノ組 十三ノ組 十四ノ組 十五ノ組 十六ノ組
右之通相綴十上申候上

午十月

名主所兼帯

右事に付用之の火事場に集り十方義合前に相綴候近年猥
相成見相之の火勢地集り火消方手付不届に
之に付用に一切又は紙に記相成候者を名主に下役並に
相賞人

相成ものの五郎ヶ尖寺場へ参役人共捕手に及候ハ
切捨てもし
右之通天保十未年十月お觸ハ近比別而猥ハしく
殺害お見受申候ハ近頃ハ世間お騒ハ
候ハ共宅ハ先宅ハ五郎治ハ元行方ハ
一通りハ申ハ聞ハ通り火付ハ
者有ハ分ハ人ハ及中ハ
交ハ中ハ
急度中ハ
右之通御申渡ハ
寛政七午年
十月

御奉行
役所

中渡

火事ハ場ハ者大勢地集ハ中ハ
従来ハ陸ハ
人ハ勿論ハ者ハ
以後御ハ
お無ハ
以方ハ
右之通御申渡ハ
十月

右之通拾貫文村方へ渡遣申候事

十合

火事場之風呂桶一切取扱中方へ仮付致又出張之節
作法有之方へ支配方へ申渡候中渡候者ハ先
中世方ニ仮ニ五人組切之合出張書ニ紙入念下ケ申候
方へ者之通達取扱可申事

寅改七月分
十二月十二日

所火消一番組ニ付い組は組上組万組
二番組ニ付ろ組せ組す組め組る組く組
三番組ニ付て組あ組さ組き組ゆ組み組

右番
五番組ニ付人組や組ま組ふ組
六番組ニ付ほ組の組ね組な組う組
八番組ニ付け組わ組か組た組
十番組ニ付こ組ち組り組ぬ組る組を組
徳川右組ニ付ニ組之組ヒ組七組
本所中組ニ付土組

右組へ人足遣代
月行事遣代
行業合せ

市火切ニ付吐月之者ニ付之酒瓶之儀者於場所ハ者
者文ニ而者お見ニ付酒吐月有ニ付一桶付酒瓶二ツ宛

世話方お役宅に詰お情消防手伝員以来消防組
復役義就任の員役と出役人所員合不役
所火消又番組内け組二組一組
九番組内れ組つ組れ組
本町中組内八組九組十組十三組
十四組十五組十六組
右組
人足惣代
月行事惣代
行事名代共

右之通相定申年中火消組合し所ゝ就任の者役宅に
就任の者一組合所人用を以格消防お用意に組し者に
以外之方共所ゝ掲書の事多就任の者全に付世話就任の

一梯子鳶口組二ツ宛出役組一組出役組一梯れ
組ロ組一組ね組右同組二梯八組九組十組十三組十四
十五組十六組右八組ハ二梯水ゝお役宅に組に一梯
内ロ組ゝ組年貢消防ゝ者ゝ者者者

引取候ハヽ左之通相心得可申候

一火消組合之世話掛之者ハ左之者ハ

役料ハ不申受ハ

て人撰い向論火口ハ

撰ケ

寛政七年

和十二月十九日

十藏

和歌

町火消人足共代

町火消人足共組頭ハ人を遣ハ

ハ向論ハ

ハ近来ハ火場ハ

途中ハ向論仕候ハヽ

外ハ及ハ

有ハ

ハ

ハ

辰二月

大通院殿　去年中被仰付候ハ、新田義貞ハ
備中国ニ相隠居候ハ、其方ハ人を遣シ可申
合旨被仰付候ハ、其方ハ不日ニ
元弘を文武両道ニ以足利尊氏
被仰付候日仰付候

寛政八年二月十日

加藤河内守殿
遠山

常憲院様御代之通ニ
被仰付候

右河内守
月行事

十渡

度々御願申上候ハ、安房国見物願ハ
不被成御免旨ニ付

石橋家ニ五人組近ク出来ル事ニ付有之八月五人ニ
又ハ近隣ニ出来ル事ニ而ハ
有之ニ付ハ
人ニ而ハ
正徳ノ事ニ
清水ニ陸ニ
不正橋ニ
途ノ事

大通院様御代ニ
刑部ニ
義家ニ
備中ニ
橋通ニ

右橋家ニ五人組近ク出来ル事ニ付有之八月五人ニ
又ハ近隣ニ出来ル事ニ而ハ
有之ニ付ハ
人ニ而ハ
正徳ノ事ニ
清水ニ陸ニ
不正橋ニ
途ノ事

大通院様御代ニ
刑部ニ
義家ニ
備中ニ
橋通ニ

見物いたし候ハ、泥酔雑言いたし候ハ、如何様ニ成共お申渡し可被成候
旨ニ付見届ケ候ハ、少年場ニ而通掖見物ハ不苦筈ニ而十名ニ付年何
歳ニ成候ハ、両時迄ハ少年場通掖見物ハ着立ニ而不苦筈ニ成
候ハ、其内ニ而ハ、ハ、ハ、

[illegible]

中ゟ一統ゟ届ケ申出候ハ[illegible]

[illegible]

己巳

[illegible]

[illegible]

一所変名ゟ其大組一騎ゟ世話ヲ致いろは小組今ゟ[illegible]名ヲ

[illegible]一ヶ年先指切其小組一組宛世話ヲ致ス

一ヶ年[illegible]大ゟ[illegible]大組一組ゟ火消ヲ進組附消防致ス[illegible]

[illegible]通ス[illegible]

一所曲輪内ゟ[illegible]大ゟ天明七年ゟ[illegible]ヲ[illegible]

一[illegible]ゟ[illegible]

一東叡山　寛永門前ゟ[illegible]

一指上寺

右同断

一ゟ[illegible]ヲ[illegible]指取扱ヲ[illegible]ヲ[illegible]自由ヲ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一縄尚書ハ名を外ハ用有ハ共立宿ハ外ハ係尚名を作尚
ト合ハ火有ハ共ハ縄ハ又離付縄ハ係ハ有ハ年ハ内ハ係ハ共ハ
ハ通ハ迄ハ清ハ御ハ越年ハ初ハ火場ハ宗ハ年ハ境目ハ
ハ後場ハ作ハ上ハ時ハ者ハ行ハ者ハ又縄尚係尚病
氣ハ合ハ者ハ尚ハ後名ハ内ハ後ハ和合ハ名ハ行ハ
ハ中ハ

他縄尚ハ名を金事ハ又物縄ハ進ハ世ハ平ハ可ハ
一朱引境ハ御ハ後ハ前名を一人所ハ後ハ人を連ハ行方ハ人数ハ後
ハ立ハ下ハ知ハ行ハ名ハ作ハ馬ハ先ハ後ハ進ハ可ハ

下ケ札

場ハ作ハ者ハ名を兼ハ記を尚ハ者ハ市曲輪内南山ハ作ハ馬ハ先
を後ハ下ハ知ハ可ハ

一南山奉行ハ作ハ馬ハ共ハ縄尚係尚ハ外ハ火場ハ作ハ者ハ動ハ名を
ハ者を作ハ馬ハ御ハ後ハ上ハ共ハ外ハ場ハ作ハ下ハ知ハ外ハ縄尚ハ名を共
係尚ハ名を作ハ名ハ者ハ御ハ清ハ人を附ハ用ハ無ハ者
動ハ

一縄尚書係尚ハ外ハ火事場ハ者ハ者ハ動ハ名を内ハ人を後場ハ者ハ
縄尚係尚ハ加勢ハ後ハ向ハ者ハ作ハ場ハ場ハ者ハ後ハ者ハ作ハ者ハ
作ハ用ハ相動ハ向ハ尚ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ
ハ中ハ後ハ作ハ

一後ハ迄ハ引境ハ後ハ後ハ場ハ作ハ作ハ後ハ後ハ後ハ後ハ後ハ後ハ
後ハ者ハ者ハ火ハ方ハ用ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ
ハ中ハ

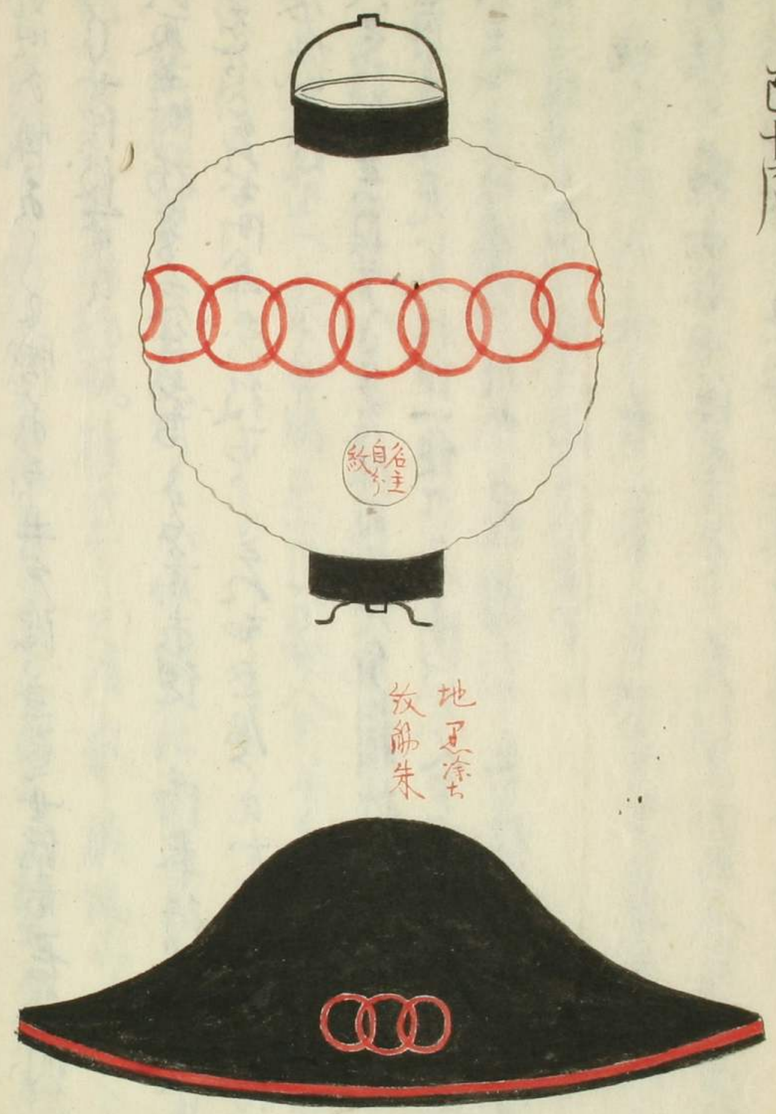
一縄尚尚ハ尚ハ所ハ行ハ支ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ

新編遅延を者を以て撰ミ遣申候

一代地おゐ者を支配ハ場所ニ場所ニ又月行幸持四郎ニ兼白南蛮石
を以て組合ニ新金一ツ支ハ一ツを以ハ町役人共ニ近ち大南蛮
お教ハ者を以遅退遣申者共ハ
一石を地灯ニ紙張お渡ハ者一軒ニ張一ツ者ハ
横ハ下ハ
但代ハ外町人お用ハ軒ハ下ハ通ハ
一町ハ夜行ハ支ハ青ハ長横ハ一ハ所ハ人ハ義ハ火消ハ
世話ハ
但町役人ハ月ハ六ハ地灯ハ手ハ通ハ
一親ハ吐ハ去書横ハ紙横子ハ火消ハ場ハ
ハ但組合ハ町役人ハ世話ハ定ハ

親吐ハ懸ハ懸ハ井戸端ハ三ハ世話書ハ町役人
ハ世話ハ
一ハ所ハ掛書ハ付者ハ名ハ
ハ者ハ町年寄役ハ
張紙ハ
一人ハ所ハ共月ハ者ハ所ハ地灯ハ渡ハ
一毎月ハ度ハ所ハ町役人ハ所ハ火場
ハ中ハ消防ハ為ハ場ハ横ハ人ハ
場ハ横ハ丁寧ハ
但人ハ所ハ横ハ者ハ人ハ中ハ
一於場ハ横ハ南蛮ハ流者ハ人ハ
中ハ書ハ中ハ上ハ法ハ

己十月



いろは組兵部所御用

名主
月行事

是迄火消人足共引揚ゝ後ゝ家内ゝて有る処ゝ取ゝ出ゝ
如何ゝ者ゝ無ゝ之ゝ儀ゝ者ゝ名主ゝ共ゝ
可致ゝ人足共ゝ名主ゝ儀ゝ次第ゝ者ゝ
御咎ゝ被ゝ仰ゝ付ゝ候ゝ事ゝ
相成ゝ申ゝ候ゝ
右ゝ之ゝ通ゝ相成ゝ候ゝ
相成ゝ申ゝ候ゝ
右ゝ之ゝ通ゝ相成ゝ候ゝ
相成ゝ申ゝ候ゝ

己十月廿九日

本村上肥後守様ゝ行後内藤文ゝ作付出張ゝ
惣代名主惣代一人ゝ宛ゝ

名主
月行事

但南行書所人足出役年間年貢格免高出役有之

河尻清一郎殿
上通
組合拠
藤岡多門殿
平助
同家臣高河拠
同河之郷左之助
又郷多清
組合拠
彩鹿河左之丞
彦八
藤岡源治河原拠

細尾河之原彦孫之助
彦左衛門
藤岡白鹿高河拠
永富一郎清之助
富次郎
神田源治河之原拠
同河多清助
傳左衛門
彩鹿河拠
同河久左之助
又郷多清
連雀河拠
藤岡多門原仁清助
長左
永富之原拠
元多郷源次左之助
乃左衛
彦八

元亨拾四町
四町五反五畝
長尺畝

稻毛永四拾
四町孫十郎
清八郎

八幡清
四郎
永仁拾四町代地拾
弟四郎二百文金清左
万五郎
永仁拾四

四郎八幡宮之内
加賀
令次四拾
小八
佐賀四拾
七八

明神西四拾
久四郎

明神下四郎四拾
弟
清左衛門二百拾
已ゝ助
切通四拾
市太郎
手越青四代地拾
令之郎
月輪寺西代
令次四
友次郎
永
之宮四ゝ

寛政二庚戌年九月　肥後守様御領分筑前国内ニ火事場ニ
及御出張ニ付人足共ニ内々申渡ス覚

人足頭取共

此度其方共を人足ニ被差出ニ付ては近火消人足共不及御出
口論を好名主共町役人共中間ニ成不用氣儘ニ仕且人足共前望
ニ成町内ニ拘ル所或ハ人足ニ内密不宜筋方ニ者有ニ把者
雇賃可申ニ成ニて却ニ申合ヲ引ヲ文さ出ル様仕ニ成
御奉行所ニ出ス人数ニ成ル上ニ出発ニて御出ニ成ル去
ル頃ニ内輪ニ成下同後右躰ニ成ル様ニ成ル方
共ニ成ル様ニ御出ニ上ハ此以後ニ成大切ニ成ル人足共ニ成ル様ニ
此上ニも其方共を制方をも不申ス人氣随ニ成見ル者有ニ成ハ
急ぎ町役人ニ申付ル筋ニ成ル様ニ定犯ニ不申内ニ人足を元船ニ
可成ル御出ニて御出ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ
其身ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ
此上ニも其方共ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ
妙ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ
以ル方ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ
一人ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ
て成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ
し有ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ
成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ
成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ
成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ成ル様ニ

を以門番人を始め堂を後ひい類を起る出張らぬ百一
統中会の事を何とぞ以を兼出来て下さいと云弁者共てゐる
百姓総平日中会て下さい
一火消人足こゝかを有こゝ所を以前人足共者共火番人こゝ節助
号を所番火消人足お鹿場お働ひ者論役ひ都もゐこゝ統
及出ひ以業ひ火消人足こゝ外を鳶之者共を火消人足こゝ交り
中百姓ひ
一消防を分こゝ出役ひ者分業将又拵所出役ひ類出張ひ
所役ひ中こゝ陣立出廻ひ者て下ひ者他相働て下さい
一こゝ近傍村井村を誠進ひ九人足も進ひ者以来傍出者を出こゝ
ゐ故ひ者傍村ゐ傍者を出ひ者次第傍こゝ進退て役こゝ
傍出者者こゝ進退を以用ひ所日傍村誠多て故ひ役

紙こゝ無て下さい
一頭取こゝ別役見分紙相拵拵打共役て出役者共を用共
て役ひ
一こゝ近傍被人こゝ役重華防中こゝ到自成番こゝ美色人足着
別次分お役ひ事こゝ有こゝ所法被華防共こゝ用不付場不
有ひ人足こゝ有こゝ出法被華防中着用不致ひ者人足こゝ人足終
こゝ又の方見こゝ者来こゝ多こゝ者こゝ合兼ひ者こゝ華防中成こゝ非
左ひ百一お先こゝ役消法被者こゝ着用役て
着用て成者
右こゝ外朱引境こゝ拵ひ火事場勤方こゝ役名主こゝ帳面こゝ
中役重者こゝ為こゝ者こゝ違校急度相守可中ひ

巳十月

右之通十月廿九日相与九ツ時致申渡

申渡

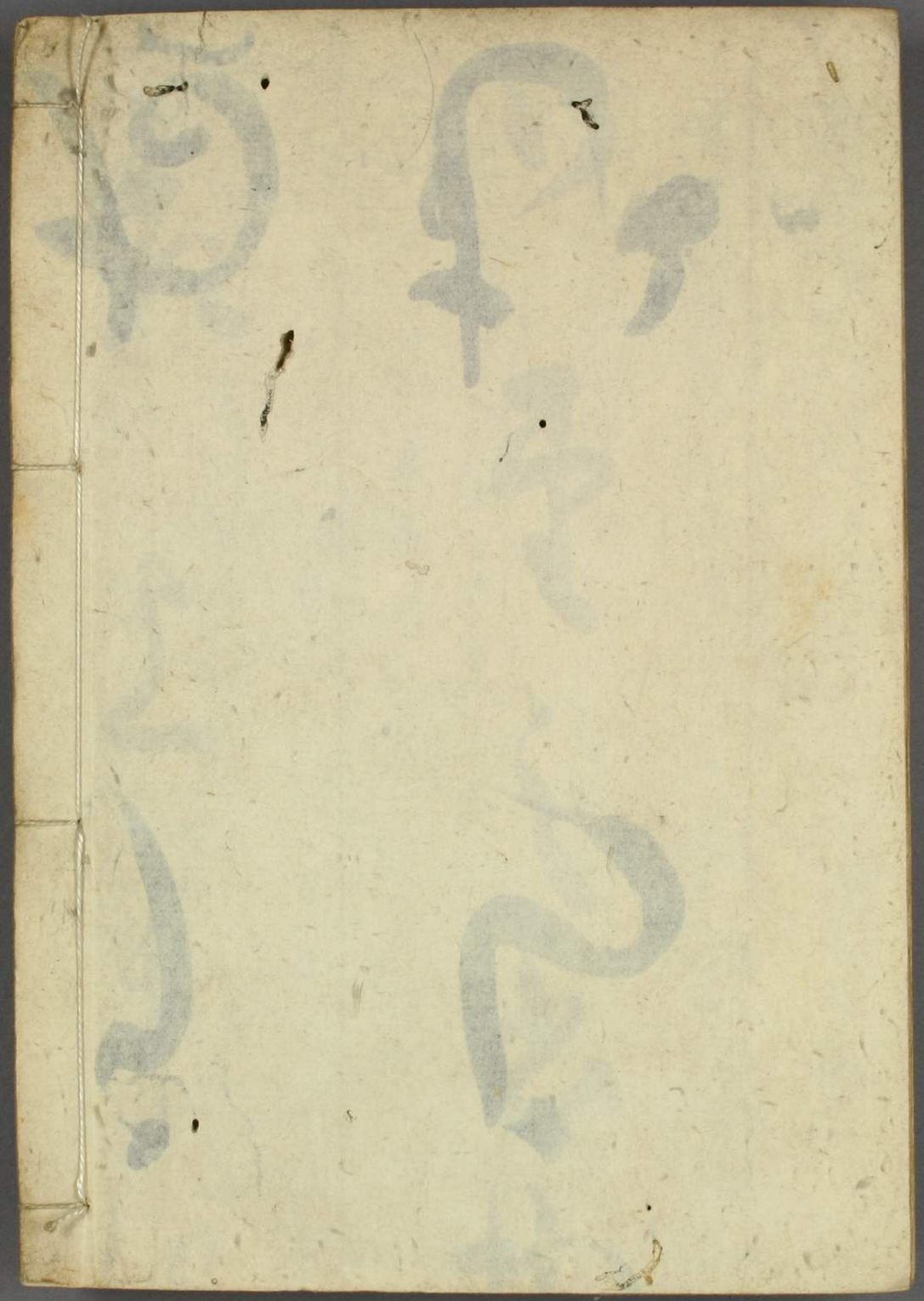
一赤引境隣組出火之節赤引ハ三町程之内出火ニ付赤引致
候ハ、其方ニ而ハ其儘之通赤引提灯ハ御用待ニ相成候
一東叡山并増上寺両山内出火之時ハ寺内ハ勿論御用
相成候ハ、
一諸寺内飛地之出火之節ハ其地之通ニ而ハ
一御内曲輪并小川町番所之出火之時ハ天明七未年十月十八日ヨリ
御役之通御用書ニ而ハ
但番所之儀ハ二番組之儀ハ飛地之儀ハ追而致申渡

手代仕来之通ハ飛地ハ勿論御用
ハ之通之通ハ御用人ハ勿論ハ御用人ハ
度ハ専ら御役之通ニ相成候

巳十月

右相与九日致申渡

一町火消人之外共ハ不及申ハ
一番所ハ赤引ハ火消人ハ
ハ之通ハ御用人ハ
ハ火消人ハ
ハ火消人ハ

巳十月

大老所御普請所覆帳をもて相渡高右衛門殿